



企画名

フェアトレードで繋がる世界 ～東日本大震災を越えて～

団体名 TVT (Takushoku Volunteer Team)

国際学部 国際学科 2年
代表者 齋藤 詩菜 他3名

▶実施スケジュール

平成25年7月11日～平成26年1月22日

7月11日	勉強会	10月18日～20日	紅陵祭での販売
7月18日	打ち合わせ	11月7日	報告会
9月7日～11日	ラオス ホアイフン・タイ村に滞在(生地の買い付け)	11月20日～	HP作成
9月12日	生地を宮城県の南三陸ミシン工房に発送	1月10日	工学部デザイン学科 工藤芳彰教授との打ち合わせ
9月28日	南三陸ミシン工房訪問	1月22日	工学部デザイン学科 学生との打ち合わせ
10月16日	商品完成		

▶実施内容

2013年7月6日に学生チャレンジ授与式があり、翌週の木曜日11日から活動を開始しました。毎週木曜日にTVTの定例会と勉強会が行われているので、それに合わせて毎週木曜日に打ち合わせを行いました。

2013年9月7日から11日まで5日間、TVTのメンバー4名でホアイフン・タイ村に滞在し、縫製品を作るための生地を買い付けをしました。1日目は村を散策しました。2～3日目は布の買い付けを行いました。4日目は近くの川に遊びに行ったり、村で行われていたお祭りに参加して、村の人と一緒に食事したり踊りを楽しみました。5日目はお世話になった家に挨拶にまわり、お昼頃に村を出ました。



9/10 ホアイフン・タイ村で布を選んでいる



出来上がった商品

帰国後すぐに、生地を宮城県の南三陸ミシン工房様に発送し、9月28日に南三陸ミシン工房を訪問しました。スケジュール調整が合わず、南三陸への訪問は1名のみになってしまいました。当時はまだミシン工房がなく、作り手の女性たちは自宅で縫製していました。しかし毎月1～2回集まりがあり、今回はその日に伺いました。集まりでは仕事の振り分けや技術指導が行われていて、私たちが委託したブックカバー制作は初めてだったようで、その日に作り方の講義が行われ、みなさん真剣なまなざしで聞き、メモを取っていました。

南三陸ミシン工房に委託した商品は、10月16日にミシン工房の代表である、熊谷氏が拓殖大学に届けに来て下さり、その際メンバー全員でご挨拶をしました。

商品は10月18日から20日の3日間、紅陵祭で販売しました。文化祭には、南三陸ミシン工房の代表と副代表の方、南三陸ミシン工房に縫製の指導をしている鈴木恵美さんが見

に来て下さいました。

11月7日に活動報告会を行いました。その後、この企画のHPの作成を開始しました。

当初予定していませんでしたが、元青年海外協力隊員の清水理栄さんの協力により、ラオス国内での商品販売が実現しました。

現在は、商品に付けるお品書き作成を、工学部デザイン学科の学生協力のもと進めています。商品販売はショップでの委託販売を中心に行っていくことになったので、今は店頭で商品を置いてくれるお店を探しています。



10/18 紅陵祭



9/10 ホアイフン・タイ村 布の買い付け



9/28 南三陸ミシン工房訪問

▶成果

私たちTVTは、東日本大震災をきっかけに立ち上がった有志団体です。震災後のGWから、現地でヘドロ出しやガレキの撤去を行いました。震災から約3年の間、被災地復興に向け、マンパワーの活動だけでなく、お祭りのお手伝いや傾聴ボランティア、スタディツアーなど様々な形で関わり続け、活動しています。今回のフェアトレード企画もそのうちの1つです。私たち拓殖ボランティアチームの中に「震災・災害」といった言葉が入っていないのは、活動内容を東日本大震災のみにとられない為です。メンバーは約3年間復興活動に取り組み、同時に、常に自分にできることを視野を広く持ち考え、自分自身に問いかけてきました。その結果が今回の企画発案に至ったと思っています。

この企画実行により、私たちは多くのことを学びました。まず、ラオス ホアイフン・タイ村での5日間の滞在では、日頃国際学部の授業で学んでいる途上国を、自身の目で見ることで、現地の人と同じ生活を送ることで何も無い(物で溢れていない)ことが不自由でもあり、また幸せでもあることを知りました。

ホアイフン・タイ村では、布を観光客に対して販売し副収入源になることを望んでいながらも、布の縫製技術はなく布のまま販売しています。観光客は、布のままでは用途が無く買うことはあまりないでしょう。今回作られた商品は、元青年海外協力隊員であった清水理栄さんのご協力により、ラオス国内で販売することもできました。商品として現物を見るのが、布にひと工夫加えるだけで、商品とし

て価値が上がることを布の織り手のカトゥ族の女性たちにも知ってもらえたらと思います。

南三陸ミシン工房の方には、ホアイフン・タイ村の方が織った布を縫製することが楽しいと言っています。単純に、南三陸ミシン工房とホアイフン村の方が給料を貰えるというだけでなく、繋がることのない人々が繋がり、支え合い、充実した気持ちになってもらえることがとても嬉しく感じます。

また、紅陵祭では多くの方が足を止めて、私たちの話を聞いてくださいました。

私たちの活動を通して、南三陸ミシン工房やホアイフン・タイ村について知ってもらえたこと、フェアトレード商品購入という支援を伝えられたことも、大きな成果だと思います。

▶反省点・今後の展望

一番の苦労はやはり、ラオス ホアイフン・タイ村での5日間です。慣れない環境の中、常に人と一緒に生活する息苦しさもありました。食事も苦手なものもありましたし、お風呂は外(何にも囲まれていない所)で体を布を巻き隠しながら、溜めてある雨水を浴びるだけです。現地に行ったメンバー4人は、ボランティアをしているからなのか、元々の性格なのか、普段の生活との違いを楽しんでいましたし、とても現地に馴染んでいました。

5日間の生活の中でも特に苦闘したのは、買い付け時のコミュニケーションです。村には英語を話せる人は1人だけで、その人は

自営業を営んでいるためついてきてもらえません。なので、買い付け時は少しのラオス語とボディランゲージで乗り切るしかありませんでした。こちらも日本で売れる商品を作らなければいけないため、しっかり、ひとつひとつ見て、電卓で値段交渉をして購入していきました。しかし、村の女性たちの必死さも恐ろしいものでした。少しでも多く売り、家計の足しにしたいのです。「私の布を買ってくれ。私の布を買ってくれ。」と売り込みます。その日は1人1人と静かにしっかり交渉するために1軒1軒まわっていたのですが、4軒目には20人ほどの女性たちに囲まれて

いました。あの必死な女性たちの顔を忘れることが出来ません。

品質のためなのですが、購入しない理由を丁寧に伝えたかったのですが、これも少しのラオス語とボディランゲージでしか伝えられなかったので後悔しています。

今後も、この活動は続けていきます。今年の夏も新しいメンバーと共に、ラオスと南三陸に行き、文化祭での販売を予定しています。販売の場も紅陵祭だけでなく、ショップでの委託販売を計画中です。

現在は、工学部デザイン学科の学生の協力のもと、商品に付けるお品書きを作成中です。

▶収支報告

支出総額 134,373円			奨励金 130,000円		
内訳			内訳		
項目	個数	小計	項目	個数	小計
9/7～ ラオス国内での移動費1人1万支給	4名	40,000円	加工費		28,718円
9/7～ ホアイフン・タイ村でのホームステイ・食費		12,480円	紅陵祭費(テント・パネル・写真印刷代など)		17,680円
布買い付け		30,000円	南三陸ミシン工房訪問バス代(東京～仙台)	1名	5,495円
			合計		134,373円

▶ホームページ掲載

- 実施計画書▶ <http://gakuchalle.jp/kikakushoList.html> ○10月中旬報告▶ <http://gakuchalle.jp/centerReport.html>
○学チャレレポート▶ http://gakuchalle.jp/gakuchalle_index.html